

すごう けいこ
菅生 敬子さん

統計調査員

1949年生まれ。小清水町出身。帯広の高校を卒業。雇用対策を実施する上での基本データとなる、就業者数や失業率などを調査する労働力調査員などを32年にわたって努め、令和になって最初の春の褒章で、藍綬褒章（統計調査功績）を受賞。



丁寧な説明を心掛け、調査世帯の皆様のご協力に感謝

きっかけ

統計調査員（統計は、「揺れる社会の揺るがぬ指標」と言われており、その揺るがぬ指標を作るために、国が行う統計調査の第一線で調査票の配布・回収などに活躍する人）は、空き時間でできるからやってみないかという、友人の紹介で始めました。始めたときは子供が小さかったので、時には子供を保育所に入れて続けました。国勢調査は5年に1回ですが、労働力調査は毎月実施するので、やはり続けていくのは大変で、同じ統計調査員の仲間も途中でやめていかれる人が多かったですね。

満足度

統計調査に協力してもらえることが何より感謝です。そんな中で、「調査ご苦労様です」とか「夜遅くまで大変ですね」とやさしい声をかけてもらえたり、寒い中大変でしょうからとカイロをもらったりなど、思いやりをかけてもらった時は本当にうれしいですね。労働力調査ですと、2年間毎月同じ方に調査することになるので、調査を受ける側も大変ですから、快く引き受けてもらえると本当にうれしいですね。また、長年続けてきて、令和になって最初の褒章を受けることができ、本当にやってきてよかったと思いました。

苦労

調査の時に、直接話ができなかったりするときは大変です。玄関越しで断られたり、最近では、オートロックのマンションが増えて、中に入れなかったりとか時代とともにいろんなことが変わっていきます。ただ、今はインターネット回答などもできるようになり、昔と比べると楽になりましたが、自分で字を書けない人には、代筆したりしています。調査は多い時で1か月25件程度、夜に調査票を配って、回収するときも夜になるので、子供を夫に見てもらっていました。家族の協力なしでは難しかったですね。

これから

統計調査員の仕事は、体が動くうちは、できるかぎり続けていきたいと思っていますが、やはり新たな担い手が増えてくれるとうれしいですね。私も経験したように、専業主婦でもできる仕事です。根気がある大変な仕事ですが、統計はとても大事な仕事で、それを支えているという誇りを持てる大変やりがいのある仕事ですよ。あと、統計調査を指導してくれる行政の方々や快く協力してくれる調査世帯の皆様が励みになっています。これからも丁寧な対応を心がけていきたいです。

お子さんがいる女性でも、統計調査はできる仕事だと思います。社会に貢献できる非常にやりがいのある仕事ですので、興味があれば、是非トライしてもらいたいと思います。